

造血幹細胞事業広報誌

VOL.24

BANK! BANK!

へその緒が誰かを救う？

みんなに知ってほしい「さい帯血」

I'm a さい帯血
HERO!



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

これからお母さん・お父さんになる方へ 知ってほしい **さい帯血** のこと

出産時にしかできないさい帯血の提供について

●「さい帯血」とはどんなもの？

「さい帯血」とは、胎盤からへその緒を通じて赤ちゃんを育てている血液で、血液を造る「造血幹細胞」がたくさん入っています。

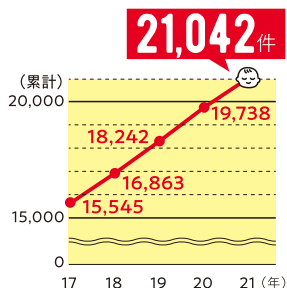
さい帯血を採取できるチャンスは出産時のみ！だからこそ、お母さんになる方の協力が必要です。



●「さい帯血」は、なぜ必要とされているの？

血液を造ることができる造血幹細胞は、人工的につくることができません。そのため、正常に血液を造れなくなる白血病や、血液中の赤血球、白血球、血小板が減少してしまう再生不良性貧血など、重い血液の病気の治療に使われます。

2021年までの
さい帯血バンク移植症例数



2021年出生数に対する
さい帯血採取数

ところが…
さい帯血提供の協力数は
まだ少ないのが現状です



約 **42** 人に
ひとり

さい帯血採取数

約 **20,000**

2021年出生数

84万2897人*

※厚生労働省の人口動態統計（速報値）

●「さい帯血」採取の痛みは？ お母さんと赤ちゃんへのリスクは？

さい帯血の採取にあたり、母子ともに痛みや健康上のリスクの発生はありません。本来、出産時に廃棄してしまうさい帯血のご提供に、ぜひご協力ください。

健康上のリスクや
採血時の痛みは



0
ゼロ

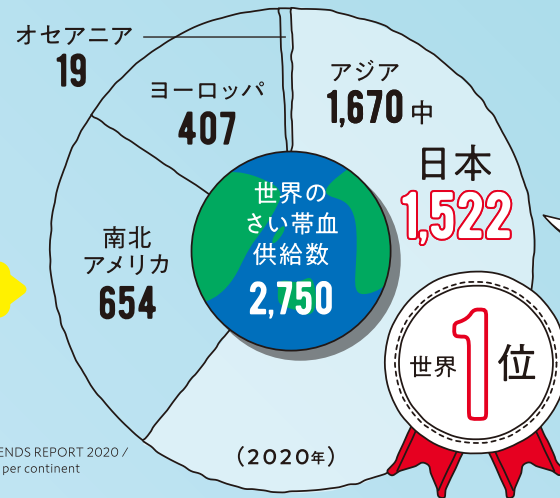
さい帯血ご提供までのながれは、詳しくは裏表紙をご覧ください▶

数字で見るさい帯血バンクの現状

日本のさい帯血供給は
どこまで進んでいるの？

全世界で見た日本のさい帯血供給数

出典: WMDA GLOBAL TRENDS REPORT 2020 /
HPC Cord shipments per continent



さい帯血の供給数の半数が日本での供給数となっており、技術的にも安定していることが伺えます。これは移植を受ける方だけでなく、提供する方の安心にも繋がります。



日本は世界でも最大のさい帯血移植先進国！移植先進国のアメリカ合衆国の供給数を大きくしのぐ実績をあげています。

さい帯血の採取は本当に安全で痛くないの？

さい帯血の採取は、赤ちゃんとお母さんの緒を切り離してから、さい帯と胎盤に残ったさい帯血を採取します。赤ちゃんとお母さんに痛みは全くなく、出産の経過にも影響はありません。

※さい帯血の提供は、赤ちゃんとお母さんの安全と健康を第一に考えて行われているため、早産の場合などは提供を取りやめることもあります。



新しく生まれる命は、
誰かの大切な人を救うヒーロー。

新しい命がその体に宿ったときから、お母さんは大切に懸命に小さな命を守り、やがて出産の時を迎えます。

新しい命が誕生する奇跡の瞬間。その一部を、誰かの大切な人のために分けてもらうことはできますか？

お母さんと赤ちゃんが生み出した奇跡が、治療を待つ人とその家族をきっと笑顔にしてくれます。

1年で採取されるさい帯血は約20,000本ですが、その中で基準を満たして保存されるさい帯血はわずか約2,500本ほど。まだまだ多くのさい帯血提供が必要です。

1年でどのくらいのさい帯血が
採取・保存されてるの？

年間保存さい帯血数

約2,500本

約20,000本

年間採取さい帯血数

さい帯血の需要は増えていますが、保存さい帯血は減少しています。



日本赤十字社
北海道さい帯血バンク

さい帯血の提供ができる
産科施設はこちら

さい帯血の提供ができる
産科施設はどのくらいあるの？

公的さい帯血バンク

全国に6か所

公的さい帯血バンクと
提携している産科施設

全国に100か所

全国の分娩取扱施設数 約2,000か所 2022年4月1日現在



さい帯血

ご提供までのながれ

1

同意書の記入

産科施設で説明を受けたあと、提供を決めたら同意書にサインします。



2

出産とさい帯血採取

出産後、赤ちゃんへその緒を切り離した後にさい帯血を採取します。



3

血液検査

お母さんが退院するまでに、感染症などがいないか血液をチェックします。



4

調製・保存

検査に合格したさい帯血を調製し、液体窒素(-196℃)の中で保存します。



5

最終チェック(出産後4か月以降)

お母さんと赤ちゃんの健康状態を確認する「健康調査票」が届きます。



6

患者さんのもとへ

基準を満たしたものは検索サイトに公開され、患者さんにあったさい帯血が提供されます。

